

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度（2018年度）		授業科目	環境都市・建築デザイン工学演習Ⅱ（9008）	
科目基礎情報							
科目番号	0084		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		1		
教科書/教材	教員作成プリント						
担当教員	今野 恵喜						
到達目標							
手法の理解と適用法の習得							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	手法が理解でき、適用もでき、さらに、広い応用へのアイデアをもてる。		手法が理解でき、適用もできる。		手法が理解できず、適用もできない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP3							
教育方法等							
概要	計画系のみならず、実験系においても関連する分析・評価手法を学び、それらを適用できることを目標とする。前期週2時間						
授業の進め方・方法	基本を学び、可能な限り自分の専門領域からデータを収集し、手法を適用して検討する。それらを報告し合い、事例を知り、更なる適用について考える。分析レポート・発表を100%として評価（総合評価100点）し、60点以上を合格とする。レポートは採点后返却し、達成度を伝達する。						
注意点	・本科で使用する教科書、ノート等を持参 ・自分の専門領域と関連づけて考えること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業内容や到達目標が説明できる。		
		2週	計画における調査計画		調査の流れについて説明できる。		
		3週	調査、データの収集・整理		調査票作成のポイント、標本抽出、各種調査方法について説明できる。		
		4週	計画関連手法Ⅰ（傾向の推測①）		重回帰分析の理論や活用について説明できる。		
		5週	データ収集		自分の専門領域を中心にデータを収集する。		
		6週	分析		分析ソフトを使って分析を実行でき、結果の妥当性を判断できる。		
		7週	分析結果について発表		分析結果をまとめた資料を基に発表し、質問に答え、討議ができる。		
		8週	計画関連手法Ⅱ（傾向の推測②）		数量化理論第Ⅰ類の理論や活用について説明できる。		
	2ndQ	9週	データ収集		自分の専門領域を中心にデータを収集する。		
		10週	分析		分析ソフトを使って分析を実行でき、結果の妥当性を判断できる。		
		11週	分析結果について発表		分析結果をまとめた資料を基に発表し、質問に答え、討議ができる。		
		12週	計画関連手法Ⅲ（意思決定）		階層分析法の理論や活用について説明できる。		
		13週	データ収集		自分の専門領域を中心にデータを収集する。		
		14週	分析		分析ソフトを使って分析を実行でき、結果の妥当性を判断できる。		
		15週	分析結果について発表		分析結果をまとめた資料を基に発表し、質問に答え、討議ができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	分析レポート・発表	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0